

科目分類	医療のコラボレーション教育			開講学科	看護学科
科目番号	学年	配当セメスター	区分	単位数	授業時間数
18036	1	後期	必修	2	30
授業科目名 (英文)	体の仕組みと働きⅡ (Anatomy and PhysiologyⅡ)				
担当教員名	高野 海哉				
授業の概要及び到達目標					
<p>概要</p> <p>「体の仕組みと働きⅠ」では、人体の各器官系の構造と機能の基本的な事柄を扱ったが、「体の仕組みと働きⅡ」では各臓器や器官系のさらに詳細な構造や、複雑な機能について扱う。同時に、各器官系の働きから、各器官や臓器が互いに連関し合いながら身体の恒常性を保っていることを学習する。</p> <p>到達目標</p> <p>「体の仕組みと働きⅠ」に引き続き、今後看護学を学んでいく上で必要となる人体に関する知識を得ることと、人体を対象とする専門職者として人体に興味・関心を持ち自ら学習する姿勢が身につくこと。</p>					
準備学習等					
<p>予習</p> <p>次頁の「授業計画」や授業の進行状況から、参考書において次回の授業内容に該当するページを一読する。一読することで授業内容をあらかじめ知ることになるので、解説や note taking に専念できます。</p> <p>授業の参加</p> <p>毎回の授業には、購入した参考書と前期で使用した「体の仕組みと働き」講義テキストを用います。必ず持参してください。授業は前期と同様スライド (PowerPoint) を用いて進行しますが、スライドに映される事項についてノートを取るようにしてください。(講義テキストの右側の空白ページをご活用ください)</p> <p>復習</p> <p>授業内容に該当する参考書の記述と、講義テキストに取ったノートの記載内容を見直し、記載内容の理解に努めてください。その時に生じた疑問は、質問するなど必ず解決してください。</p>					
成績評価の方法	定期試験 100%				
テキスト	前期「体の仕組みと働きⅠ」で使用した講義テキスト 「からだの仕組みと働きを知る」 (高野海哉ほか著 東京化学同人)				

参考図書	<ul style="list-style-type: none"> ・「系統看護学講座 専門基礎① 解剖生理学」 (坂井建雄ほか著 医学書院) ・「ナーシンググラフィカ① 解剖生理学」 (林正健二編 メディカ出版) ・「ロス&ウィルソン 解剖生理学」 (島田達生ほか監訳 西村書店) ・「ヒューマンボディ 原著第3版」 (片桐康雄ほか監訳 エルゼビアジャパン) ・「臨床につながる解剖学イラストレイテッド」 (松村譲児 著：羊土社) ・「人体の構造と機能 (第3版)」 (佐藤昭夫ほか著：医歯薬出版) <p>※これらの図書はすべて五反田図書館に蔵書があります。</p>
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・同時期に開講される「基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ」を学ぶ上で必要となる解剖生理学的な知識を確認しながら、双方の講義・演習をリンクさせて学習することも念頭に置いて学習してください。 ・オフィスアワーについては、看護学科「オフィスアワー」の項目を参照にしてください。メール (k-takano@thcu.ac.jp) でいつでも質問などには対応します。 ・卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連については、別途明示している各学科の履修系統図をご確認ください ・試験実施後に出題内容に関する解説を行い、答案は返却する予定です。

授 業 計 画

第1回：循環器系	心臓のはたらき
第2回：循環器系	血管のはたらき
第3回：呼吸器系	気道の特徴 肺胞におけるガス交換
第4回：呼吸器系	血液によるガス運搬 呼吸の調節
第5回：神経系 感覚器系	脳のはたらき 脳室と脳脊髄液
第6回：神経系 感覚器系	情報の伝導路：体性感覚の伝導路 特殊感覚の伝導路と感覚器
第7回：神経系 感覚器系	脳神経のはたらき
第8回：消化器系	口腔の特徴 咀嚼と嚥下
第9回：消化器系	腹膜・消化管の特徴 便の形成と排便

第 10 回：消化器系	肝臓のはたらき (講義テキスト § 8)
第 11 回：腎泌尿器系	腎臓による血圧の調節 腎臓と体液の調節①
第 12 回：腎泌尿器系	腎臓と体液の調節② 排尿のしくみ
第 13 回：恒常性の維持	恒常性を維持する自律神経系・内分泌系のしくみ (体温・血糖)
第 14 回：生殖器系	生殖器系の構造 生殖腺の働き (ホルモン分泌・配偶子形成)
第 15 回：生殖器系	受精と着床・胎盤と臍帯・胎児循環